

# 2024 年度学校評価結果と 2025 年度重点目標

2025 年 3 月

恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

### 【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935 年（昭和 10 年）に設立した幼稚園です。幼い時に、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに育ちあう園であり続けます。

### 【教育方針】

- ・意欲のある子ども・・・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
- ・思いやりのある子ども・・・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
- ・感性豊かな子ども・・・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
- ・感謝できる子ども・・・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

## 2. 2024 年度の振り返りと 2025 年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2024 年度、重点的に取り組む目標】の振り返り

#### ①キリスト教保育の探究

—だれもが愛されている存在であることを実感する—

幼稚園は子どもたちにとって初めての集団生活、社会との関りがスタートする大切な場所です。集団生活の中で、大人は皆と同じことができるようになることを目標に努力します。そこには社会のルールが存在するからです。しかし、子どもの世界では、まず一人ひとりの個性を他の子どもたちが受け入れ、一緒に生活することから集団生活が始まります。その過程を経て、集団で一つの物事を作り上げていくことの喜びを実感できるのです。恵泉幼稚園では「みんなちがって、みんないい」というキリスト教の精神を大事にし、一人ひとりが神さまからいただいた賜物であることへの感謝と、神様に愛されていることの安心感を、保育を通して伝えてきました。その結果、子どもたちは、自分のことも友だちも大事にする、という精神が養われました。年長合同礼拝では「今月の聖書の言葉」について話しました。その結果、「もっと神さまのお話を聞きたい」と言ってくる子どもたちがいました。礼拝で保育者から聞いた話を質問してくる子どもたちもいました。有形無形の形でキリスト教保育が浸透していることを感じました。創立から 90 年を迎える伝統の上に「キリスト教保育」の存在意義を感じる一年でした。

#### ②かけがえのない幼児期における非認知能力の育成

—やりたいことが実践できる場を増やす—

クラス、学年単位で活動する場と、園庭で伸び伸びと自由に遊べる場があることが、日々の生活の中でメリハリとなり、子どもたちは創造力豊かに自分たちで遊びを生み出し、友だちの輪を広げ、幼稚園生活を楽しんでおりました。保育者は子どもの日々の成長に合わせたカリキュラムを設定していますが、個人差がある幼児期に皆が同じレベルをクリアすることは難しいことです。しかし、カリキュラムはクリアすることが目標ではなく、一人ひとりの成長段階における「非認知能力」を伸ばしていく過程に重きをおきました。自分の思い通りに物事が進まなくても、それを受け入れ、なぜそうなったのかを子どもと保育者で話し合う時間を大切にしました。保育者はこれからも、子どもたちの言動に注意し、子どもたちにとって真に必要なことを保育の中に取り入れ続けてまいります。

#### 【2025年度、重点的に取り組む目標】

① 互いに尊敬の気持ちを持って接する

—相手に対する思いやりを表現できる人になる—

② 心を耕し、子どもたちの好奇心、関心、意欲の芽を伸ばす

—子どもの声が届き、保育者がそれを聴き逃さない環境づくりに努める—

#### 【2025年度、重点的に取り組む目標】の設定について

① 互いに尊敬の気持ちを持って接する

—相手に対する思いやりを表現できる人になる—

「思いやりのある子ども」は恵泉幼稚園の教育方針にも挙げられております。「思いやり」とは他人の気持ちを想像できること、と言われております。しかし私たちは自分以外の人のことはなかなか理解しにくいものです。そのため、書物を読んだり、人の話を聞いたりして想像力を豊かにしていく必要があります。けれども一番大事なことは、「あなたのことが心配です。わたしに何かできますか。」という気持ちが相手に伝わることではないでしょうか。それは言葉であり行いであるかもしれません。また、時には相手を静かに見守る、ということも大事になってきます。言葉があってもなくても、そこに尊敬の気持ちがあれば自ずと相手に「思いやり」の気持ちが伝わるのではないのでしょうか。子どもと子ども、子どもとおとな、おとなとおとな、と相手は違っていても、尊敬の気持ちを持って、表現方法を熟考し接していたかどうかを、一日の終わりに振り返る年でありたいと思います。

② 子どもたちの好奇心、関心、意欲の芽を伸ばし、心を耕す

—子どもの声が届き、保育者がそれを聴き逃さない環境づくりに努める—

子どもたちは一生懸命おとなに話し掛けます。子どもたちの人生のスタート時期において、とても大事な内容にあふれていることがあります。しかしながら、おとながそれを受け止める心の余裕がなければ、とても悲しいこととなります。まず、子どもたちの話を聞く。結論を急がず、「なぜ、どうして」という時間を大切にする。子どもが興味をもっている事柄を保育者とおうちの方で共有し、ちょっとした変化であっても互いに報告し合い、さらに子どもの興味、関心が伸びていくように意欲の芽を伸ばしていきたいと思っております。自分の話を聞いてもらえたと実感できた子どもたちは、さらに自分の心を耕し、新しい種を蒔き育てていくことができます。おうちの方と協力し合って、一人ひとりの成長に寄り添える環境づくりに努めます。

### 3. 学校評価結果の取組み

(1)

《評価項目》

「おうちの方の学校評価」を実施し、評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。

《取組み状況》

いただいたご意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。いくつかの諸行事・諸活動が小学校と重なってしまいご迷惑をお掛けしたことから、小学校との連携をより密にとり、次年度は参加しやすい設定としました。また、預かり保育についてのご要望が目立ちました。今年度は専任の兼務教員を確保することが出来、利用される方に対応して参りましたが、今後も利用者数の増加が予想されますので、利用者に満足していただく対応が重要な課題と捉えております。

(2)

《評価項目》

教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。

《取組み状況》

保育者の自己研鑽のためにまた幼稚園全体のために、日頃から研修への参加を奨励しております。その機会を活かし、保育者は他園の先生方と意見交換し、切磋琢磨しながら日常の保育の向上につなげてまいりました。また、自分の研修課題を見つけ、書物やオンライン研修などで知識を深め、保育に役立っている保育者もいました。研修内容は幅広く、保育の内容に関わるだけでなく、事故や災害などの危機管理に関するものなど多岐に及んでいます。各自が学んだことを保育者同士で共有し合い、保育に活かすとともに次の学びへつなげていくことができました。